

# 台東区消防団運営委員会(第一回)

令和6年1月19日 14時30分  
台東区役所議会第一会議室

## 次 第

- 1 開 会
- 2 委員長あいさつ
- 3 委員の紹介（資料1）
- 4 議 事
  - (1) 台東区消防団運営委員会について（資料2）
  - (2) 特別区消防団運営委員会の答申及び対応方針について（資料3）
  - (3) 特別区消防団運営委員会への諮問について（資料4）
  - (4) 今後の審議予定（資料5）
- 5 閉 会

## 台東区消防団運営委員会名簿

職	選出区分	氏 名	備 考
委員長	区 長	服 部 征 夫	台東区長
委 員	区議会議員	高 森 喜 美 子	区議会議長
〃	〃	岡 田 勇 一 郎	環境・安全安心特別委員会委員長
〃	学識経験者	保 坂 真 宏	都議会議員
〃	〃	鈴 木 純	都議会議員
〃	〃	政 木 喜 三 郎	上野防火防災協会会長
〃	〃	黒 田 収	浅草防火防災協会会長
〃	〃	小 幡 拓 也	日本堤防火協会会長
〃	消防署長	岡 田 一 将	上野消防署長
〃	〃	三 浦 弘 直	浅草消防署長
〃	〃	山 口 克 己	日本堤消防署長
〃	消防団長	山 田 秀 一	上野消防団長
〃	〃	田 島 真	浅草消防団長
〃	〃	榎 一 郎	日本堤消防団長

選出根拠：委員長は「特別区の消防団の設置に関する条例」第7条、委員は、同条例第5条による。

## 台東区消防団運営委員会について

### 1 根拠

消防団運営委員会は、特別区の消防団の設置等に関する条例（昭和38年東京都条例第53号）及び特別区における東京都の事務処理の特例に関する条例（平成11年東京都条例第106号）に基づき、知事の附属機関として、特別区ごとに設置されている。

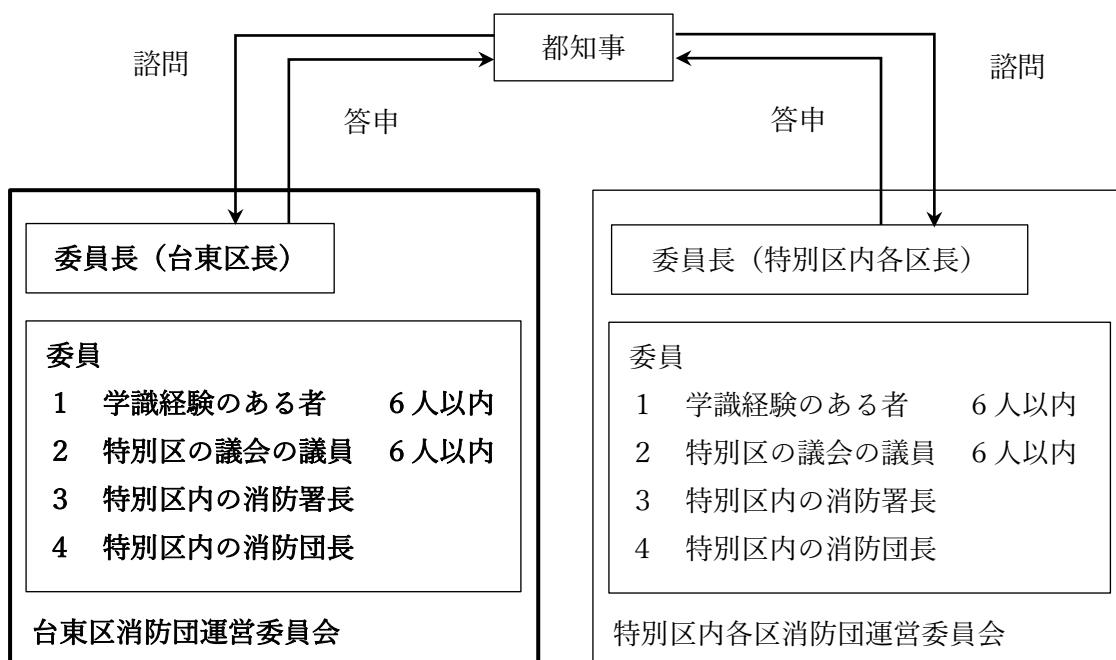
### 2 目的

消防団の組織の整備を図り、その運営を円滑に行うことを目的とする。

### 3 審議内容

- (1) 消防団の組織に関すること。
- (2) 消防団員の確保に関すること。
- (3) 消防団員の待遇改善に関すること。
- (4) 前各号のほか、上記の「目的」を達成するため必要な事項

### 4 体形図



## 特別区消防団運営委員会の答申及び対応方針について

I 諮問事項	大規模地震発生時における特別区消防団の消火能力を向上させる方策はいかにあるべきか
II 諮問の趣旨	<p>特別区消防団は、それぞれの地域での密着性を生かしながら、災害発生時には消火を中心とした活動を積極的に行うとともに、平時においても、火災予防の啓発や住民への各種訓練指導等の役割を担うなど、地域住民から頼られる存在である。</p> <p>今後、発生が危惧されている「首都直下地震」や「南海トラフ地震」等の震災時には、その特性を生かした迅速な出場による初期消火をはじめ、木造・防火造建物の密集地域での消火活動、また、消防隊との連携による延焼阻止活動、さらには長時間に及ぶ消火活動など、その役割は普段の活動以上に多岐にわたることが考えられ、当庁との連携を考慮した組織的な対応が必要となる。</p> <p>このことから、消防団の実戦的な対応力の更なる向上が、震災時における「より効果的な活動」につながると考えられることから、特別区消防団の消火活動能力の向上方策について諮問がなされたものである。</p>
III 審議期間	令和3年10月から令和5年3月まで

IV 主な答申内容及び対応方針			
1 効率的・効果的に活動能力を向上させる方策			
項目	台東区の答申内容	各特別区の主な答申内容	今後の対応方針（東京都）
実戦的活動力の向上関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>時間的制約の中での効率的で効果的な教育訓練が必要</li> <li>活動マニュアルを活用した実戦的な訓練が必要</li> <li>消防署と連携した効果的で実戦的な教育訓練が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>消防団が主体となった総合的な訓練の推進</li> <li>活動マニュアル等を活用した実戦的な訓練及び署隊と連携した訓練の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>訓練指導マニュアル等の整備による主体的な活動の定着</li> <li>新たな訓練モデルの提示・検証による実戦的活動力の向上</li> </ul>
研修等の充実関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>指揮要領及び活動要領習得のための消防学校での研修</li> <li>消防団員を指導する立場にある消防職員に対する消防学校での研修</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>消火班等に特化した研修や教育など教育訓練の充実</li> <li>消防学校が行う研修や資格取得講習の受講人員の増強</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>可搬ポンプ実技講習の試行・検証</li> <li>消防学校研修や各種講習の随時見直し</li> <li>消防団の消防学校研修への消防職員の聴講検討</li> </ul>
訓練環境の充実関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>消防署訓練施設等の訓練場所の検討</li> <li>関係機関と連携した実戦的な訓練場所の確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>消防署訓練施設や方面訓練場などの更なる活用</li> <li>区など関係機関と連携した新たな訓練場所の確保や総合的な訓練を実施できる大規模な訓練場の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>消防署訓練施設や方面訓練場を活用した訓練の推進</li> <li>区など関係機関と連携した訓練場所の確保推進</li> </ul>
2 デジタル環境の有効活用			
現行のデジタル環境の活用関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>オンラインによる定期的な教育訓練及び教養の実施</li> <li>振り返り訓練の導入など訓練効果向上のためのデジタル環境の活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>オンライン教養や遠隔による訓練指導の推進</li> <li>訓練録画映像による振り返り訓練の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京消防団e-ラーニングシステムの更新による利便性の向上</li> <li>タブレット端末を有効に活用した教養や訓練の推進</li> </ul>
新たなデジタル環境の整備関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>QRコード読み取りによる各種資機材動画の取扱い教養</li> <li>災害の疑似体験や指揮判断ができるアプリケーションの導入</li> <li>AR・VRを活用した訓練施設の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>二次元コード活用による各種資機材の取扱説明動画の導入</li> <li>AR・VRなどデジタル技術を活用した訓練環境の導入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種資機材取扱い動画等にアクセスできる二次元コード読取り方式の導入</li> <li>AR・VRなどの技術を活用した訓練導入に向けた調査研究（調査研究委託）</li> </ul>
3 消火能力を維持するための充足率の向上			
若い世代の団員確保関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>インターネット広告やSNS等を活用した募集広報の充実</li> <li>仮入団制度や体験入団の導入による若い世代の団員確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>若年層へのSNSやインターネット広告での情報発信</li> <li>学生や企業の若年層を対象とした募集や体験入団の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>HP、SNS、インターネット広告等を活用した情報発信の推進</li> <li>現役消防団員との座談会の実施方法の検討</li> </ul>
募集広報の充実及び強化関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>女性や学生に特化したリーフレットによる募集活動の展開</li> <li>団員へのインタビュー動画で消防団の魅力をアピール</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象別（学生、女性など）リーフレットを活用した募集広報</li> <li>団員のインタビュー動画の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「東京消防団エントリーシート」を活用した入団促進</li> <li>団員インタビュー動画等を活用した消防団の魅力が伝わる広報の推進</li> </ul>
各種制度の利活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>震災時等の大規模災害団員制度の活用による入団促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大規模災害団員制度等による団員を継続できる環境の推進</li> <li>消防団協力事業所及び学生認証制度の周知</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大規模災害団員制度等の更なる周知と活用による退団への対策の強化</li> <li>消防団協力事業所及び学生認証制度の広報強化</li> </ul>
4 装備資機材の検討			
新たな資機材関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャスター付きホースバックなど負担軽減のための新たな資機材の整備</li> <li>電動搬送台車や電動資機材搬送車の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホース延長など、より迅速かつ負担軽減可能な資機材整備</li> <li>震災時等に備えた大量放水できる消火資機材の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>震災時等、迅速にホース延長できるホースバックの整備</li> <li>資機材の電動化や新技術を取り入れた資機材の導入検討</li> <li>消火能力や安全管理向上のための資機材の導入検討</li> </ul>
軽量化など負担軽減関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>長時間活動時の負担低減、機動性及び迅速性を図るための既存資機材の軽量化やコンパクト化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>油圧救助資機材や手引き可搬ポンプ搬送台車など、各既存資機材の軽量化やコンパクト化、電動化の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>更新に合わせた既存資機材の軽量化やコンパクト化など市場の開発動向の注視と検討</li> </ul>



## 特別区消防団運営委員会への諮問について

I 諮問事項	変化する社会情勢に適応し特別区消防団の組織力を向上させ住民の負託に応え続ける方策はいかにあるべきか
II 諮問の趣旨	<p>特別区消防団は、地域になくなくてはならない代替性のない存在であり、地域防災力の中核として、住民の負託に応じてきたところです。さらに、本年(令和5年)は、関東大震災から100年の節目の年であるなど、消防団への期待はさらに高まっており、東京の安全安心を守っていくためには地域防災力の中核を担う消防団が、将来にわたって更に充実し、消防団としての役割を果たしていく必要があります。</p> <p>一方で、特別区においては、人口が2035年ごろに減少に転じ、2050年をピークに高齢化が進行すると予測されているほか、近年は、DXの進展によるテレワークなどの働き方の多様化や、単身世帯の増加による地域コミュニティの希薄化など、社会情勢は常に変化しているところです。</p> <p>このことから、各消防団や各区の特性なども踏まえながら、変化する社会情勢に適応し特別区消防団の組織力を向上させ、住民の負託に応え続ける方策について諮問するものです。</p>
III 審議期間	令和5年8月から令和7年3月まで

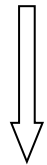
IV 課題と検討事項		
<b>課題1 地域防災の要である消防団として、変化及び成長していくことが重要である</b>		
検討事項	検討項目	主な調査・検討内容
入団し活動を継続したいと思える組織の活性化方策について	消防団活動によりやりがいを持てる方策	・やりがいを感じる活動や各世代によるやりがいの違いについて
	既存研修の拡充や必要となる資格の取得	・既存研修の拡充や消防団活動に有効な資格について ・多様な職業や資格を活かした団員から団員への講話の有効性について
	多様な主体との協働による地域密着型の講習・講座の検討	・地域内の企業や官公庁と連携した講習、講座、ワークショップの発掘について
最新の技術等を考慮した活動環境の改善方策について	災害への出場命令や消防団員間の情報伝達の方策	・MCA無線やトランシーバの更新、統合等、通信手段の利便性を向上について ・出場指令の早期伝達手段について
	タブレットを活用したシステムの導入	・タブレット端末の更新に合わせた新たなアプリやシステムの導入について
	各種資機材の更新に合わせた仕様変更	・環境に配慮した装備資機材の配置について ・利便性の向上や負担軽減が期待できる資機材について
<b>課題2 活動力を地域で発揮していくことで、地域住民の負託に応え続けることが重要である</b>		
検討事項	検討項目	主な調査・検討内容
消防力維持のため、計画的な人材育成方策について	経験が浅い消防団員への教育訓練体制	・訓練効果を確認する方策について ・消防団員の活動技術や実績に応じた災害現場での識別方法について
	経験豊富な団員による訓練指導体制	・長年の消防団活動で培った知識や技術を反映した指導方法について ・訓練指導者の研修や指導体制について
	「操法訓練」と「実戦的な訓練」の実施目安	・操法訓練の訓練効果について ・実戦的な活動能力を高めるための訓練方策について
地域に尽力している消防団を地域住民により知ってもらう方策について	積極的な災害活動の定着化と区等と連携した普及方法	・消防団員の災害活動に従事する意識向上方策について ・区等と連携した消防団活動の新たな認知度向上方策について
	地域から、より理解と信頼を得る消防団づくり	・地域行事や消防団行事を通じた地域住民への理解促進方策について ・消防団員が行う総合防災教育等を通じ、将来を見据えた児童・生徒の消防団活動に対する理解促進方策について

## 審 議 予 定

諮問	令和5年8月16日付 「変化する社会情勢に適応し特別区消防団の組織力を向上させ住民の負託に応え続ける方策はいかにあるべきか」
----	---

## &lt; 第一回台東区消防団運営委員会 &gt;

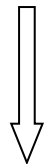
令和6年1月19日（金）	<input type="radio"/> 前回の答申結果 <input type="radio"/> 諮問事項の趣旨説明 <input type="radio"/> 諮問に対する検討方向性 <input type="radio"/> 今後の審議予定
--------------	--



消防団員へのアンケート実施  
検討内容の項目出し

## &lt; 第二回台東区消防団運営委員会 &gt;

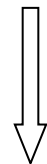
令和6年8月頃の予定	<input type="radio"/> 検討内容について協議 <input type="radio"/> 答申書（草案）の検討
------------	--



答申案の作成

## &lt; 第三回台東区消防団運営委員会 &gt;

令和7年1月頃の予定	<input type="radio"/> 答申案の策定・承認（答申決定）
------------	---------------------------------------



答申期日：令和7年3月31日